

第4回安曇野市地域福祉計画推進・策定委員会 会議概要

1	審議会名	第4回安曇野市地域福祉計画推進・策定委員会
2	日 時	令和5年7月27日 午後1時30分から午後3時30分まで
3	会 場	安曇野市役所 3階 全員協議会室
4	出席者	尻無浜会長、山崎（徳）副会長、山崎（博）委員、深井委員、池田委員、八田委員、小澤委員、酒井委員、依田委員、西澤委員、小木曾委員、藤松委員
	<事務局>	安曇野市社会福祉協議会 地域福祉課 大澤課長、宮澤主幹係長、稲越まちづくり担当係長
5	市側出席者	上條課長、丸田係長、水野主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人 1 人	記者 0 人
8	会議概要作成年月日	令和5年8月9日
協 議 事 項 等		
1	開 会（進行：上條課長）	
2	会長あいさつ（尻無浜会長）	今日は山崎（徳）副会長からも挨拶をいただきます。
	（山崎（徳）副会長）	今日は、アンケート結果等の説明をします。また、来月8月の終わりも会議を予定しておりますので、この暑さに負けないようによろしく願いいたします。
	（尻無浜会長）	前は5月で、今回まで2か月空いていますが、今回は8月に開催する集中した形で会議を組んでいます。第3期のこれまでの検証を行いながら、新しい第4期の検討を行います。今回と次回の会議等が大きな山場になることをご承知おきください。
3	協議事項	
	（尻無浜会長）	各種アンケートの結果報告等の第3期計画の検証内容が、第4期計画の足掛かりや根拠などの素材になります。これらを踏まえた上で、アンケート結果の検証をよろしく願います。
	（1）第3期計画の検証について	
	①団体・事業者アンケート調査報告（資料1）	
	（水野主査）資料に基づき説明。	

(尻無浜会長)

団体・事業者といっても、福祉関係の法人団体、ボランティア団体、一般の民間事業者等があり、説明しましたアンケート結果のように色々な特徴が出ています。

第3期計画の検証という観点から、何らかの傾向が見て取れればと思います。

(委員からの質問、意見)

特になし。

②前回委員会での質問への回答

ア 他自治体のアンケート回答状況（資料2）

(水野主査) 資料に基づき説明。

イ 調査項目の体系（市民、団体・事業者アンケート）（資料3）

(丸田係長) 資料に基づき説明。

(委員からの質問、意見)

(西澤委員)

殆どの人はアンケートと同じような感じで、地域福祉で活動する人は一部に限られている形だと思います。

地域福祉というのは、地域にあった福祉が求められて始まったもので、どういう風にしていけば良いかを掘り起こして、ニーズに合わせていけば、地域福祉を利用しない人にも繋がっていき、安曇野市の地域福祉が進んでいくということを考えていただきたいと思います。

何が必要か、地域の人や地域福祉を利用している人から広がっていけば良いと思います。

ただし、一般の人は利用できない、利用する時間がない、活動する時間がない状態なので、社協や福祉担当によく聞き取ってもらって、対策を進めていただければと思います。

(小澤委員)

NPO法人の運営に携わっているので、人材不足はすごく深刻な問題だと痛感しています。

第3期計画の8ページに担い手の不足が挙げられていますが、今回の団体・事業者アンケート結果が深刻で、必要な人材確保できているかの質問で約60%が確保できていないことを、どの様に評価し、第3期計画に基づくどの様な取り組みで効果があったか、お聞きしたいです。

(回答)

(丸田係長)

担い手の不足への対応として、どの様な取り組みと評価したかについては、当日資料の政策体系3-2に地域福祉活動の担い手づくりなどとして纏めて、今まで取り組んできた内容が記載されていますので、ご確認ください。

事務局でも担い手不足への対応として、何が出来ているか再度確認していきます。

(池田委員)

私は、地域福祉の考え方として、福祉は幸せづくりであり、自分が地域の中でどうやって幸せに老いていくのかだと考えています。

地域福祉に対し、地域住民、社会福祉協議会、民間事業者などが様々な立場で関わっているので、結果全ての住民が何らかの形で関わっていると考えています。この住民が何らかの形で関わる中で、「幸せにあり続けたい」や「区の活動を続けたい」など、考えていくと思います。ですので、全ての住民が様々な活動に関わることで、その中で幸せに老いていく道筋を見つけていけば良いと思います。

地域福祉には様々な課題がありますが、人は一人一人違い誰もが幸せに老いていくために、第3期のアンケートを参考・土台として、自分の立場としてできることを考え第4期計画の策定を検討していきたいと考えています。

また、先ほどの小澤委員の質問にある人材の問題について、重要な課題だと思います。個々の人や組織だけで人材育成をどうしていくかではなく、全員が知恵を出して各々の立場の中で人材育成をどうしていくかを、第4期計画策定に向けて検討できれば良いと思います。

(小木曾委員)

区では、コロナの影響で中止になった事業を、一気に復活させて実施しようという動きがあります。活発になる活動を参考に、地区という立場から第4期計画策定に向けて検討していきます。

(藤松委員)

三郷公民館として、住民の皆さんと関わっています。一昨年からは「穏やかに繋がりあって、ずっと住み続けたい、三郷地域へ」とキャッチフレーズを作りました。

公民館活動は福祉にも関わる活動で、当然講座や教室を実施していますが、地域づくりが根本にあり、その上での活動だと思います。人材育成の課題がありましたが、講座や教室は関わりづくりであり、担い手づくりも行っていると考えています。

私は、この第3期計画の区、行政と社協が一体になって計画を立てている83プランに大変感動したので、公民館活動では他団体と連携することを念頭に置いています。アンケート調査結果の中で第3期計画を知らない団体・事業者があることが、大きな課題だと思います。委員の私達だけが計画を理解していても駄目で、広く理解してもらう必要があります。

また、市民の皆さんにも計画を理解してもらうよう取り組んでいく必要があります。根本的に住民同士で関係をつくり幸せになりたい気持ち、アンケート結果から十分に見て取れるので、計画を理解してもらえば、関心を持ち、様々な人が様々な立場で地域福祉に参加していくと思います。

地域福祉は、住民の皆さん自身が当事者になった時に、本当に始まると思います。自分事にするために、様々な立場の人ができることをして、それを繋げていく事が大事だと考えています。

③第3期計画 検証のまとめ

(水野主査) 資料に基づき説明。

(尻無浜会長)

行政計画の地域福祉計画と社協の地域福祉活動計画を、合わせて一体となって取り組んでいく最初が、第3期計画でした。市、社協それぞれの検証が大きいことから、社協観点での検証の説明をお願いします。

(宮澤主幹係長)

前回5月に説明した箇所と少し重なりますが、担い手不足では、市社協や支所・地区社協ではボランティア育成や講座を実施してきました。ですが、講座の主目的は、市民の意識を高めるものや交流の機会としたものでした。

人材育成という点では少し弱い状態であり、人材の確保や人材活用の仕組みの構築までできていません。このため、第4期計画では、一人一人の意識を高める人づくりと、地域福祉を担っていく人材の育成が、大きな課題となっています。

(委員からの質問、意見)

(八田委員)

人材育成の件は、社協から説明のありましたボランティア育成の研修が該当すると思います。ボランティア登録をして活動する人は生きがいになるし、ボランティアとして高齢者を支えることが、私は素晴らしい取り組みであると思いますし、結果は出ていると思います。

私が所属するNPO法人のコミュニティアササポートでは、日常生活総合支援事業の研修を担当し、尻無浜先生にもご協力いただき通所型サービスAに従事する人の育成をしています。ですが、サービスAに従事せずに、研修を受けて終わる人達が沢山います。サービスAに従事すると労働契約をして4～8時間の勤務をしますので、ボランティアのような活動の登録ができる仕組みが欲しく、1、2時間でも担い手になれる場があれば、意欲はあって勉強に参加するがサービスAに従事できない人達に、登録してもらいコーディネートすることで担い手として活躍してもらえenと思います。

また、認知症サポーター養成も余裕がない状態で、公民館で講座を行っていますが、ほぼ区役員だけの参加となっています。リピーターとなる人も居ますが、担い手と活躍のマッチングが必要となるので、講座の時点で担い手となる人と活躍のマッチングができると良いと思います。

(酒井委員)

こども園を運営しています。保護者へファミリーサポートを勧めています。使おうとしてもサポーターと繋がらず人材がない状態です。サポーターのやる気がある人達と関係づくりができれば、保護者もサポーターをやるようになると思います。

また、ヘルパンギーナが流行しましたが、子供はヘルパンギーナでこども園に行くことが出来ないため母親が休まなければならない、母親が勤めている会社では出勤してほしいができないという状態でした。このような場合に、医療関係で病児保育があればすごく助かると思いますが始まっていないので、計画に組み込んでいただきたいと思います。

(尻無浜会長)

第3期計画では、計画の進行管理と評価がコロナ禍で行えなかったことから、5年間分の見直しを一気に行っています。第4期計画では進行管理と評価を続けて取り組んでいく必要があります。

(2) 第4期計画の施策体系(案)について

(丸田係長) 資料に基づき説明。

(委員からの質問、意見)

(西澤委員)

コロナで止まっていたものをこれから進めなければならないが、優秀な人はいっぱい居るので、人材を掘り起こして頼めば活動してもらえ、自然と活動している人は、地域で形を作らなくても活動している。地域福祉の活動が無いわけではなく、住民の皆さんも活動していると思います。

今日は、専門家の意見をお聴きしまして、色々と参考になりました。是非、専門家の皆様にも意見を出していただき、計画をどうしていけば良いか伺いたいです。

(依田委員)

第4期の基本目標は、大変分かり易いと思います。重点事業の包括的支援体制づくりの権利擁護などは、日頃から関係がありますので、詳しく見ております。

個人的には、成年後見制度の利用促進が、安曇野市はまだ遅れていると思います。利用したくても利用できない人への補助や助成関係などが始まっていない状態です。

利用したくても利用できない人や、サービスを利用するまでもないが障がいを持っている人などの、制度の狭間として扱われる問題かもしれませんが、このような問題を具体的な項目として検討していければ良いと思います。

また、専門職として仕事をしていますが、ケアマネ、地域包括や医療関係者と情報を共有することが少なく、個々で分断されているので、包括的な支援体制づくりは必要だと思います。亡くなった時などに問題が噴出するので、もう少し早くから相談に携われていたらと思うことが多

く、市民一人一人が元気なうちに何か形に残すことで、自分事として福祉活動に参加できるような終活方面での項目も計画に入れてもらいたいと思います。

(深井委員)

第4期計画の組み立てを行うにあたり、どのような視点で行ったかお聞きしたい。

地域のあり方では、高齢者が地域で自分らしく暮らしていけるか支援していますが、なかなか支援に繋がらないときは、地域の人との関係性が出来ていないことや地域の中で孤立していることがあり、問題が早めに出てこないケースが多いように感じています。

担当している人や専門の人は、それぞれの立場で一生懸命取り組んでいますが、それが一つに固まり力を発揮できるような仕組みが難しく、そこを繋いでいく役割ですが力不足も感じていることから、この計画の中ではこの件に触れていただければと思います。

(回答)

(丸田係長)

第4期計画の組み立ては、個人個人の意識という部分を最初に持ってきていて、それを踏まえて地域の中で関係づくりをしていく流れで組み立てています。要は個人単位から少しずつ関係する地域や社会が広がっていく流れとなり、個人個人の意識、関係づくりや協働、人と人との繋がりやサービスの充実、これらを支えるハード的な部分の環境づくりとなっています。

(宮澤主幹係長)

基本的に地域福祉を推進する上で一番根幹となるのが、一人一人の意識で他人事ではなくて一人一人が主体的にどう動くか、どう考えるか、これが全てになりスタートになるということで、基本目標として人づくりとしています。

4 その他

(山崎(博)委員)

県社協では第2期の長野県域版の地域福祉活動計画を策定しましたが、本日話した現状や課題が長野県域版とずれが無かったことに安心しています。多文化共生、ユニバーサルデザイン、重層的支援体制整備事業など、新しいものに取組まれる部分も含まれているので、一気に計画が広がったと感じています。

なお、一点加えてもらいたい点として、まちづくりがあります。第4期の基本施策案に「市民参画のまちづくり」や「子どもを育むまちづくり」がありますが、安曇野市では移住者が大変多い地域だと思いますし、農業を始めて農福連携に進む声も聞こえていることから、まちづくりを計画に加えていただきたいと思います。

5 閉会